みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和３年９月３０日　第１２号

東　輝

全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

５月２７日に、全国の全ての公立中学校の３年生を対象に国語、数学及び質問紙で「全国学力・学習状況調査」が実施されました。結果については学力向上委員会を中心に分析し、今後の取組についても検討しました。学校通信第５号や進路だより第１５号でも本調査について触れましたが、以下に結果の概要や今後の取組等を掲載いたします。なお、調査を実施した３年生については個々の調査結果を配布しますので、今後の学習への取組の参考にしてください。

＜調査目的の概要＞

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

＜出題内容の例＞（前年度までの学習内容で構成されています）

◇身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
◇実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
◇知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
◇様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

＜本校の結果の概要＞

新聞等で既に報道されているとおり、今年度の群馬県の結果は下表（左）のとおりでした。教科に関する調査は、知識を問う問題と活用する力を問う問題を一体的に出題する形となっていますが、群馬県の中学校の平均正答率は、国語、数学ともに全国を上回っています。

また、群馬県の平均と比較して、本校は下表（右）のようになっており両教科とも県の平均をやや上回っています。

全国と本県の平均正答率（%）

	国　語	数　学
全　国	６４．６	５７．２
群馬県	６６	５８

本校と県の比較

	国　語	数　学
平均正答率	やや上回る	やや上回る
県平均を上回る設問数	８ （１４問中）	１１ （１６問中）

＜国語の全体的な傾向や特徴的な内容＞

□「国語への関心・意欲・態度」は全国や県の平均と同程度です。
△「話すこと・聞くこと」に関しては県の平均をやや上回っています。特に「話合いの話題や方向を捉える」出題については、県の平均を大きく上回っています。
△「書くこと」に関しては県の平均をやや上回っています。特に「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成を考える」出題については、県の平均を大きく上回っています。
▼「読むこと」に関しては県の平均をやや下回っています。他の領域より難易度が高いものでしたが、特に「文脈の中における語句の意味を理解する」出題については、県の平均を大きく下回っています。
△「言語についての知識・理解・技能」については、県の平均を大きく上回っています。

＜数学の全体的な傾向や特徴的な内容＞

△各評価の観点（「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」や各領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）の全てにおいて県の平均を上回っています。
△▼「数学的な見方や考え方」については、県の平均をやや上回っていますが、難易度が高かったこともあり、正答率の絶対値も低くなっています。
△▼「資料の活用」の領域では県の平均を大きく上回っています。特に「度数」に関する出題は県の平均を大きく上回っています。一方で、同じ領域でも「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係」の出題は県の平均を大きく下回っています。
△「関数の意味の理解」や「与えられたデータの中央値」「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現すること」の出題は、県の平均を大きく上回っています。

（裏面に続く）

＜生徒質問紙の結果のうち、特徴的な内容＞

【県の平均と比較してプラス面の差が大きかったもの】

○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
○家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）。
○１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
○道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

【県の平均と比較して改善を要する内容と捉えられるもの】

□毎日、同じくらいの時刻に寝ている。　□毎日、同じくらいの時刻に起きている。
□自分にはよいところがあると思う。　□学校に行くのは楽しいと思う。
□普段（月～金）、１日当たり４時間以上ゲーム類をしている。
□自分の知っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。
□今住んでいる地域の行事に参加している。
□学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
□学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
□学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
□新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。

＜今後の主な学校の取組＞

今回の結果には様々な内容が含まれているため、全ての結果をお伝えすることはできません。しかし、好ましい結果と改善を要する結果として顕著に表れている内容については、学力向上対策を見直す際の視点に加えながら、今後も学校全体で対応していきたいと思います。以下は、今後の主な学校の取組です。

【校内研修の推進】

学校通信１１号（学校評価に関する内容）の学力向上の欄に記載したとおり、校内研修を効果的に行い、不断の授業改善に取り組んでいくことで学力向上につなげていきたいと思います。具体的には、授業の在り方について検討する機会を設ける、教員がお互いに授業を参観する、教育委員会の指導の機会を活用するなどして、一人一人の教員の指導力向上を図っていきたいと思います。

【補充学習の充実】

既に取り組んでいますが、定期テスト前や長期休業期間などを活用して、授業時間以外でも学校で学習する時間を設定する取組を継続します。

【指導体制の工夫】

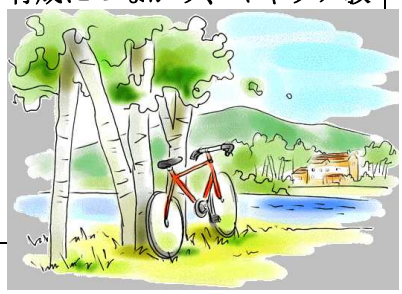
数学や英語の実践のように、教科や単元、生徒の実態等に応じて学習集団を編制し直し、個別の実態に応じた指導を充実できるようにしていきます。また、小中連携も継続していきます。

【タブレットの有効活用】

タブレットの使用が目的化しないよう留意しながら、協働的、対話的な学びを充実させることによって自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていきたいと思います。また、基本的な知識については、インストールされているアプリなども活用しながら反復的に学習することで定着を図っていきたいと思います。

【基本的な生活習慣の定着に向けた取組の充実】

就寝時間や起床時間などの基本的な生活習慣に関連する内容にやや課題が見られますが、学力との関連もありますので、学校保健委員会なども活用しながら改善を図っていきたいと思います。

学力は飽くまで生徒の一側面ですが、基礎的・基本的な知識や技能、考える力や表現する力などは、わたしたちが社会生活を送っていく上で不可欠な力です。また、進路の実現に向けても必要となる力です。そのようなことからも学力向上を図ることが生きる力の育成につながり、キャリア教育の充実にも資すると考えております。

学力向上に向け、自主学習の日々の提出や、配布してある「家庭学習の手引き」などを更に有効活用していただければと思いますが、国が学力について示している内容の中には、「学びに向かう力」「人間性の涵養」といった表現も含まれていますので、各ご家庭におかれましても、様々な視点を踏まえながらお子様の成長に向けた支援を引き続きお願いいたします。